

令和6年 第12回福祉医療常任委員会所管事務調査報告書

令和6年11月19日

別海町議会議長 西 原 浩 様

福祉医療常任委員長 外 山 浩 司

福祉医療常任委員会の所管事務調査を実施したので、別海町議会会議規則第77条の規定により、次のとおり報告いたします。

記

《第12回》

1 日時

令和6年11月19日（火） 午前10時00分から午後0時10分まで

2 開催場所

委員会室3

3 出席委員

外山浩司委員長、宮越正人副委員長、中村忠士委員、小椋哲也委員、高橋眞結美委員

4 欠席委員

なし

5 委員外

なし

6 協議事項

（1）子ども・子育て支援について

7 説明員の職と氏名

福祉部長 干場みゆき、福祉課長 石戸谷友絵、介護支援課長 高橋勇樹、
老人保健施設事務長 渡辺久利、福祉課主幹 澤田憲一、福祉課主査 大森晴美
保健生活部長 小川信明、保健生活部次長 千葉宏、保健生活部次長 谷村将志、
生活環境課長 上田健一、母子健康センター主査 岩光理代子

8 協議結果

(1) 所管事務調査項目

①子ども・子育て支援について（保健生活部）

○障がい児支援について

- ・障害児通所支援事業(子ども広場ひかり等の利用者への補助)では、特に長期休業中に保護者の負担が生じる。(1ヶ月の限度が53時間以内であることから)放課後デイサービスの利用時間にカウントされることで解消できると考えられる。
- ・障がい者への手当での受給の手続きは、保護者の責任にあるが、書類の作成などで難しい面がある。福祉課の担当職員とのやり取りも個人情報等の絡み面などもありスムーズにいかず、手当で受給に至らなかったとの保護者のからの話もあった。最終的には担当者と保護者の信頼関係である。
- ・今後国の政策でもある家庭支援センターの設置により、今まで保健センター、福祉課、教育委員会などの窓口に行き、同じような説明をしてきたのが一つになることは組織的に大変いい。令和7年度からという説明であったが、早期実現を。
- ・障がい児の生育記録を記した「生活ノート」があるが、使用されていないのは残念である。機能するように検討することも必要である。

※先日子ども広場ひかりの保護者との意見交換会で、「新1年生の1日入学の体験の場を増やしてほしい」という内容があった。当委員会の所管ではないので、別なルートで学校へ直接依頼を行う。

②子ども・子育て支援について（福祉部）

○産後ケアについて

- ・この事業は、母親の心のケアや育児サポートなどの支援で無料となり、とてもいい事業。
- ・1回3時間だと短いのでは。せっかくの機会であり、母親にゆっくり癒しを与えては。
- ・産後ケアの委託先が、中標津町、釧路市、釧路町と幅があり、利用者の選択肢が広がっている。
- ・赤ちゃんを釧路方面へ移動するのは、厳しい面があると思われる。
- ・お母さんの声に、「ゆっくり温泉に入りたい」とあった。今後の「ふるさと交流館」の計画に産後ケアの視点も組み入れてほしい。
- ・赤ちゃんに兄弟がいる場合は、その兄弟も制度内の対応となるといい。

③その他

- ・地域めぐり懇談会役割分担

司会：外山議員

記録：高橋議員

※必要に応じてホワイトボードや付箋を活用していく。

- ・1月にごみ処理施設を視察予定(町のごみ処理場と広域連合のごみ処理施設)

以上